

# 大津 歴博 だより

2010  
No.80

## 開館20周年を迎えて

大津市歴史博物館は、平成二年十月の開館以来、本年で二十周年を迎えることができました。その間、多くの皆様方からご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて当館では、開館以来、大津ゆかりの歴史や文化を紹介する企画展や、れきはく講座などを開催するとともに、れきはくホームページやブログの開設など、さまざまな形で、歴史情報の発信に努めてまいりました。今後は、古くからお住まいの方々はもちろん、新しく市民となられた方々にも、大津市の豊かな歴史と文化に触れていただき、郷土に対する愛着を育んでいただくための情報提供を、当館の活動の大きな柱の一つとしていきたいと考えています。

ところで昨今の、博物館・美術館をとりまく状況は、ますますきびしさを増しております。このようななかで、大津市歴史博物館が二十周年を機に、今後どのような方向性をもって事業を展開させていくか、改めて検討していく必要があると考えています。

本年は、この考え方に基き二十周年記念として、大津ゆかりの国宝、重要文化財を一堂に会する企画展「大津 国宝への旅」や「大津百町大写真展」など、さまざまな事業を開催します。特に「大津百町大写真展」は、博物館から飛び出し、大津市の関係各課や大学、市民グループなどと連携し、市街の各所を会場として開催するものであり（後掲）、新たな試みとして実施するものです。

このように、二十周年を契機として新たな事業を意欲的に進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご鞭撻をいただきますよう、お願い申し上げます。

平成二十二年七月

大津市歴史博物館 館長 松浦俊和



近江名所図(右隻部分) 本館蔵



大津市歴史博物館

## ●大津市歴史博物館のあゆみ

大津市歴史博物館の建設に向けての動きは、昭和五十七年九月に設置された「(仮称)大津市立総合資料館」基本構想策定協議会に始まり、今から二十八年前のことです。そして、同五十九年二月、基本テーマに「ふるさと都市大津のあゆみと形成」を掲げ、名称を「大津市歴史博物館」とするとの策定協議会の答申を得ました。そして、同年四月、教育委員会文化課に博物館建設準備室が設置され、建設事業がスタートしました。

準備室設置後、まず着手したのは常設展示の構成でした。大津市は、南北に四五・六キロと長細いため、市内各地域で独自の歴史が育まれてきました。そこで、他の博物館のように時代順の常設展示ではなく、各地域の歴史に根ざした「テーマ展示」と時代順の「年表展示」を二本柱とし、その理念のもとで、常設展示の構想コンペを実施しました。建築に先駆けて展示の内容を先に決定したことは、当時の博物館の建設手法として全国的にも珍しい方法でした。



開館記念式典 山田豊三郎市長(当時)の挨拶

さらに昭和六十年(開館の五年前)には、収蔵品収集審査会を設置し、資料の収集を開始しました。それから二十五年、平成二十一年度までに、購入・受贈・受託合わせて八八五件の貴重な資料を収蔵し、随時、展示、公開しています。

平成二年十月二十八日からの開館記念特別展は、大津が誇る豊かな仏教文化に視点を置いた「仏教文化の聖地 大津」を開催。大津ゆかりの

国宝、重要文化財を公開し、多くの観覧者をお迎えすることができました。以来、市内各社寺のご協力を仰いだ仏教関係の展示を継続するとともに、大津京や近江八景、大津絵、東海道と大津宿、さらには大津事件、江若鉄道といった幅広いジャンルの企画展を実施しており、平成二十一年度までで五一回を数えます。

また平成十一年には、新たな収蔵資料のお披露目や学芸員による研究成果発表の場として、常設展示室内の一角を模様替えし、ミニ企画展コーナーを設けました。

そして、翌十二年にはホームページを立ち上げ、常に新しい情報を発信しています。平成二十二年五月現在のアクセス数(トップページ)は四十八万回に上っています。また平成十三年には、当館の展示等の実績が評価され、文化庁から重要文化財公開承認施設に認定されました。同十四年には、市内の成安造形大学と連携した、夏休み子どもワークショップを開始しました。江戸時代のおもちゃの原理を応用した創作おもちゃを拵え、展示するもので、現在も好評継続中です。同十九年三月、前年の大津市と志賀町合併に伴い、長年の懸案であった常設展示のリニューアルが実現しました。

そして本年、開館二十周年をむかえ、さまざまな記念事業を計画しています。まず、十月から十一月にかけては、大津ゆかりの国宝、重要文化財を一堂に会した記念企画展「大津 国宝への旅」、それと同時に、博物館としては新しい試みである「大津百町大写真展」を各々開催いたします。翌二十三年三月から四月にかけては地元大津出身の近代日本画家・柴田晩葉に焦点を当てた企画展を予定しています。今号では、それら事業の一端を紹介いたします。

## ●速報 開館二十周年記念企画展「大津 国宝への旅」

会期 十月九日(土)～十一月二十三日(祝)

大津の国宝・重要文化財は、京都・奈良に次いで多く所在し、そのうち国宝

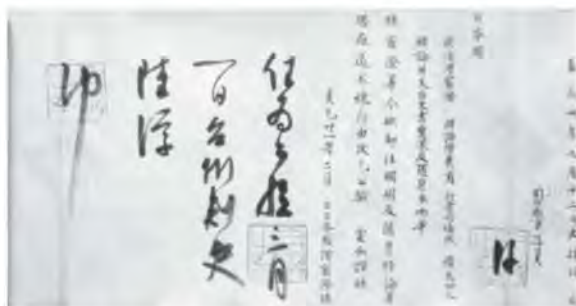
は平成二十二年四月段階で三十六件となっています。本展では、建造物を除いた二十七件のうち、一件でも多く展示、公開し、市民を初めとする多くの方々に、大津の持つ豊かな歴史と文化に触れていただくことを考えています。

およそ一三五〇年前の大津京から江戸時代までの歴史のあゆみを、ゆかりの国宝・重要文化財でたどり、あわせて、それらに匹敵する未指定文化財を展示することによって、大津の「文化力」を紹介するのが本展の狙いです。

とりわけ大津には、延暦寺・園城寺（三井寺）・石山寺・西教寺・聖衆来迎寺といった古刹が造営されてきました。それらの寺院には珠玉の国宝が伝えられています。円珍の遺骨を納入したとされる園城寺の秘宝・御骨大師や中尊大師、円珍の修行中、眼前に現れた不動明王を画工に描かせたとされる絹本着色不動明王像（黄不動尊）、智証大師円珍自筆の書跡類。延暦寺に伝えられた伝教大師最澄ゆかりの書跡。石山寺第三代座主淳祐が書いた聖教に、高野山奥院に現れた弘法大師の香気がつつたとされる「薫聖教」、浄土教



国宝 六道絵 天道歡樂図（部分）  
聖衆来迎寺藏



国宝 伝教大師入唐課 延暦寺藏

絵画の至宝とされる聖衆来迎寺所蔵の六道絵などを、ご所蔵者のご理解とご協力により、本展で展示、公開させていただくことになりました（会期中、展示替えを行います）。

その他、市内外から、絵画・彫刻・工芸・書跡典籍・歴史資料・考古の各分野に渡る至宝約一〇〇件余り（国宝十七件、重要文化財四十件余り）を展示する予定です、当館始まって以来、最大規模の展示になることは間違いありません。展示の詳細は、次号の「歴博だより」に紹介させていただきます。

企画展

大津百町大写真展——マチを記録すること——

平成二十二年十月三十日（土）～十一月二十三日（祝）

平成十八年三月、大津市歴史博物館に市内在住の写真家・谷本勇氏から長年撮りためられた写真、約二〇万コマが寄贈されました。この中には、昭和三〇～四〇年代の大津の中心市街地（通称 大津百町）の様子が多くを占めており、街並みの移り変わりや、高度経済成長下の人々の暮らしぶりなど、当時の大津百町の懐かしい記憶がよみがえる写真が、数多く含まれています。また、これらの写真は同時に、なにげない日々の風景を記録しておく事の大切さ、記録を残すことの重要性も教えてくれます。

今回の「大津百町大写真展」は、写真という素材を手掛かりに、二つのテーマで行なう催しです。一つは、ちよつと昔の大津百町の様子を当時の写真

から紹介し、写真から思い出される記憶（思い出）を含めて、「大津百町のむかし」を記録として残すこと。もう一つは、古いものと新しいものが混在する、「大津百町のいま」を写真で記録し、未来の人々に伝えること。

今回は、通常の当館の企画展とは異なり、大津百町内の様々な施設を会場とし、それぞれを結ぶことで、大津百町一帯が会場となるように構成しています。また、内容も大津市内で活動する各種団体との共同で事業を行ない、「大津百町のむかしといま」を織り交ぜながら、大津百町の魅力を発見していただく、これまでにない催しとなる予定です。

ここでは、会期中に行なう展覧会を簡単に紹介します。

#### ◇大津百町の記録写真―思い出とともに―

当館所蔵の谷本勇氏撮影写真を中心に、昭和三〇～四〇年代の大津百町の町並みや人々の生活を伝える写真から、当時の暮らしぶりを思い出していただく写真展です。本展は、参加型の展覧会です。会場内の懐かしい写真から蘇る様々な思い出を書き残していただき、写真とそれぞれの記憶から、当時の大津百町の様子を浮き彫りにしていきます。



#### ◇オールドオーツ「物語の誕生」2010

【実施：シネファンク】

大津百町のお家のアルバムなど、家庭に眠る昭和時代のスナップなど、ちょっと昔の地域の生活の様子が見られる写真を元に、インタビューが聞き書きし、ひとりひとりの物語に編集。そうして集まった物語と写真で一枚

ずつのパネル（共同作品）を制作し、展示します。

#### ◇二十年後に残したい大津携帯写真展

【実施：おおつのええもん・ええとこ携帯写真展実行委員会】

「二十年後の人々に見せたい大津百町」というテーマで、今の大津百町の様子を携帯写真で投稿していただきます。応募写真は、期間中に展示するとともに、二十年後にもう一度展示することをお約束します。

#### ◇大津百町2010ーまちなかの記録ー

【実施：成安造形大学 写真メディア研究室】

成安造形大学の写真を専攻する学生と有志メンバーが、現在の大津のまちなかの様子を記録することをテーマに、それぞれの問題意識・表現方法で作品制作を行なう写真展。学生たちの見た、現在の大津の姿を切り取ります。

会期中は、そのほかにも様々なイベントを数多く企画しています。詳細は、大津百町大写真展 blog (<http://otsu100c.shiga-sakurui.net/>) などで、逐一お知らせしますので、是非ご覧ください。

（平成二十二年文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業）

#### 企画展

#### 柴田晩葉―湖都のモダン日本画家―

平成二十三年三月五日（土）～四月十七日（日）

昨年度のミニ企画展において、ささやかな規模ながら紹介した大津の大正日本画家・柴田晩葉（一八八五～一九四四、山元春拳門人）。企画した担当学芸員も、当初予想した以上に、地元には見事な作品が残されていることを知りました。それもそのはず、大津の人々は、愛すべきご当地画家を支えるために、「十葉会」という後援会を結成して、作品購入の支援にとどまらず、なんと

五十点あまりの出陳規模の展覧会までも開催しています。昭和六年（一九三一）の話です。もちろん出品者は大津市民の方々ばかりです。来年はその展覧会から八十年、本年は晩葉が生まれてから百二十五年の節目を迎えます。ということ、今度は、「十葉会」に代わって、大津市歴史博物館が、晩葉の回顧展を開催いたします。文部省美術展覧会、帝国美術院展覧会で入選を重ねたのも納得の、本格的な作品も展示される一方、思いのほか可愛らしい造形が魅力的な作品も並び、まさに、大作小品を織りませて、大津が生んだモダンな大正日本画作品の数々が登場します。

乞うご期待！



柴田晩葉 大佛の鐘



柴田晩葉 石山寺源氏之間 石山寺蔵

### 三二企画展

## 大津・戦争・市民

平成二十二年七月二十一日(水)～九月十二日(日)

昨年の夏休み、当館では企画展「戦争と市民」を開催し、一二〇〇名を越える小中学生を初め、七二〇〇名余の来館者をお迎えすることができました。戦後六十五年が経ち、戦争を体験された方々の高齢化が進んでいます。戦争そのものが風化していくなか、平和への誓いを新たにしている場として、規模は小さいながら、本年も戦争に関する展覧会を開催します。

本展では、昨年の企画展に引き続き、銃後の市民生活を展示の中心としていきたいと考えています。まず、戦争と教育という視点から、瀬田国民学校の絵日記や、小学校の教科書を展示します。特に絵日記は、当時の「少国民」の素直な心情が表現されており、胸に迫るものがあります。また、「少国民」のみならず、大人たちも対象とした戦時教育紙芝居は、戦争遂行に向けての意識の高揚をうながす役割を果たしました。さらに、戦車や戦闘機を描いた子供茶碗は、子供たちが戦争に「憧れ」を感じるきっかけとなったものです。



高等科生徒の勤労働員 【瀬田国民学校絵日記】より

その他、衣料切符や家庭用品購入券、戦時国債など、銃後の生活統制や戦争協力の様子を伝える資料、命令伝達のために機能した町内会のさまざまな回覧板なども、合わせて展示します。



五十嵐香輔 近江八景時絵硯箱



近江八景時絵香炉台



大津絵 鬼鼠柵

本年開館二十周年を迎える歴史博物館。しかし、館蔵品の収集は、開館の五年前から始められました。大津・近江の豊かな歴史と文化を物語る資料として収集された分野は、絵画・彫刻・工芸・書跡典籍・古文書・考古・民俗と、ほぼ全ての分野にわたっています。この秋は、開館二十周年ということで、歴史博物館に見出され、館蔵品となった資料たちの中から、選りすぐりの代表選手を選出し、お披露目いたします！

歌川広重・伊東深水の美しい近江八景。ひょうきんな大津絵たち、深遠な仏教美術、空想探検に引き込まれる歴史資料、太古のロマンへと誘う考古資料、それらレキハク代表選手たちをぜひご覧ください！

三企画展 館蔵名品展  
平成二十二年九月十四日(水)～十一月二十八日(日)



日吉山王垂迹神曼荼羅図



琵琶湖眺望真景図

大津歴博だより No.80  
平成22年7月20日

大津市歴史博物館  
〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎(077)521-2100  
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>